

磐梯朝日自然環境保全研究所活動報告書

所 長 塘 忠 顕

研究目的

磐梯朝日国立公園において、植生遷移、火山活動、気候変動、人間の土地利用、水利用が自然環境に及ぼす影響の実態把握と将来予測を行い、現在の自然環境を維持・保全・改善するための方策を明らかにする。

研究メンバー

< 研究代表者（研究所長） >

塘 忠 顕（共生システム理工学類教授）

< 研究分担者（プロジェクト研究員） >

長橋良隆（共生システム理工学類教授）

黒沢高秀（共生システム理工学類教授）

柴崎直明（共生システム理工学類教授）

木村勝彦（共生システム理工学類教授）

川越清樹（共生システム理工学類教授）

高貝慶隆（共生システム理工学類教授）

横尾善之（共生システム理工学類准教授）

兼子伸吾（共生システム理工学類准教授）

川崎興太（共生システム理工学類准教授）

< 連携研究者（プロジェクト客員研究員） >

藪崎志穂（総合地球環境学研究所研究基盤国際センター研究員）

研究活動内容

HP による情報発信

研究所のメンバーによる現地調査、研究論文・報告書、学会発表、研究所のメンバーが支援した活動などを HP により紹介した。

現地調査活動

裏磐梯地域、表磐梯（猪苗代）地域での昆虫相や土壌動物相調査、裏磐梯地域・猪苗代地域

産の植物相調査、外来植物の駆除活動、裏磐梯地域や猪苗代地域の大型湖沼、小規模な池沼での地下水位観測および地下水流動解析、複数の湖沼を対象とした水質観測結果の複数年の比較、磐梯山麓の野外地質調査およびこれまでに採取した猪苗代湖底質の放射性セシウム濃度の測定、裏磐梯地域の積雪に関する分析等を行った。



研究論文等の公表

表磐梯地域を流れる長瀬川の底生動物相、猪苗代湖底堆積物（INW2012 コア）に挟まる火山性イベント層からみた磐梯山と安達太良山の過去 5 万年間の噴火活動の再評価（2019 年 7 月 23 日付の福島民友・福島民報に記事掲載）、裏磐梯の来訪者特性に関する内容などで、研究所のメンバーあるいはメンバーの研究室の院生が 6 本の論文を公表した。

研究成果発表等

第 79 回日本昆虫学会大会、第 2 回アザミウマ研究会 地学団体研究会第 73 回総会（東京）、日本惑星科学連合 2019 年大会（JpGU2019）、日本地質学会第 126 年次学術大会、第 9 回同位体環境学シンポジウム、令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会、第 40 回菅平動物学セミ

ナー、猪苗代湖学県民講座、フォレストパークあだたらふくしま生き物調査発表会 2019 など
で研究所のメンバー、メンバーの研究室の院
生・学類生が研究成果を発表した（全部で 14
件）。

研究所の研究成果報告会は 2020 年 3 月 8 日
に北塩原村休暇村裏磐梯天文台ホール会議室
にて開催した。裏磐梯地域の動物・植物、地下水
流動、湖沼の水質、表磐梯地域を流れる長瀬川
の底生動物、猪苗代湖の湖底堆積物の分析に基
づく安達太良山や磐梯山の活動履歴に関する 6
題の研究成果が報告された。新型コロナウイルス
の感染拡大防止から、県内外の多くのイベン
トが延期・中止となる中での開催だったが、学
内者 12 名、学外者 27 名の合計 39 名の参加者
があり、活発な意見交換ができた。



助成研究に関する成果

株式会社ニチレイより、2 件の応募研究課題
（黒沢高秀：『裏磐梯植物誌』出版を目指した
植物の種多様性研究、塘 忠顕：裏磐梯地域に
ある株式会社ニチレイ社有地内のヨシ湿地の
昆虫相解明）に対して研究費が助成された。

裏磐梯の植物の種多様性に関する研究では、
キヨスミウツボ、アラゲヒョウタンボクなど新
たに 18 種類の植物を確認し、2004 年以降に確
認された植物が 905 種類、うち絶滅危惧植物 42
種類、侵略的外来植物 31 種類となった。

ニチレイ社有地内のヨシ湿地の昆虫相に関
する研究では、予想に反して採集される昆虫類

の多様性が低かったため、昨年度からの継続課
題である土壌動物相調査を進め、土壌性カニム
シ相を解明した。5 地点の土壌から得られた 728
個体を同定した結果、5 属 6 種を認めた。また、
優占種 2 種の生活史を推定したところ、2 種と
も平地とは異なり、成体になるまで 1 年以上を
要する可能性が示唆された。

その他の活動

裏磐梯地域で福島県自然保護課が開催した
研修会で黒沢が外来植物の現状と課題につい
て講演した（令和元年度福島県野生動植物保護
サポーター研修会：2019 年 8 月 30 日）。

日本大学工学部で開催された猪苗代湖学県
民会議で長橋と塘が猪苗代湖湖底堆積物や流
入河川である長瀬川の底生動物に関する研究
成果について講演した（2019 年 8 月 31 日）。

塘と研究室の学生が、表磐梯地域を流れる長
瀬川、特に酸性水域における底生動物相を調査
し、表磐梯地域の長瀬川を特徴付ける底生動物
を解説するミニ・ガイドブックを作成した。ガ
イドブックは、流域の関係団体や関係者、裏
磐梯ビジターセンター、猪苗代水環境センター、
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館に提



供した。

環境省モニタリングサイト 1000 事業におい
て、猪苗代湖サイトの陸水域調査（湖沼）水生
植物調査を行った（2019 年 9 月 21 ~23 日）裏

磐梯曾原エリア（曲沢沼）でのコカナダモ駆除活動（2019 年 9 月 5 日）、猪苗代湖の漂着水草回収（2019 年 10 月 20 日）に黒沢研究室の教員や学生などが参加した。これまでの植物相調査の結果が国や自治体に情報提供され、福島県のレッドリスト改訂（ふくしまレッドリスト（2019 年版））や環境省による磐梯朝日国立公園の指定植物の見直し案作成など、環境行政に活用された。